

本質的な問い 食べるとはどういうことか。

単元名 STOP 食品ロス！～ふみ出そう！天応から未来へつなぐ第一歩～

児童生徒の実態

- 課題を解決するために情報収集の方法を考え、必要な情報を集めることができる児童の割合は100%、情報を比較、分類、関係付けをして新たに情報を見付けることができる児童の割合は91%である。（児童アンケート）
- 「食」について学習することに興味関心がある児童の割合は91%である一方で、食品ロスによって引き起こされる問題を知っている児童の割合は44%、「食」についての課題で知っていることがあると答えた児童の割合は15%であった。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

- 身近な「食」について、「食品ロス」の視点から情報を収集し、食品ロスを減らす取組の実現に向けて、まわりと協働する姿（情報収集力、協働性）
- 本単元と他教科との横断的な学習を行い、教科で培った表現力等を活用し、根拠をもって相手や目的に応じて適切に表現する姿（情報活用力）
- 自他を尊重した対話による学び合いを大切に、課題解決に向けて粘り強く挑戦を続け、自らの生活や行動に生かそうとする姿（挑戦心）

単元を貫く問い 食品ロスを減らすために、私たちができることは何だろう

【探究課題 食をめぐる問題とそれに関わる人々の取組（食）】

【第3次】（18時間）

課題 地域社会で食品ロスを減らす取組を改善し、実行しよう。

スーパーマーケットでの販売

買い物に来た消費者

個別の問い

- ・プレ販売での改善点を生かしてどのような取組ができるだろうか。
- ・プレ販売の改善点から、さらにどのような情報を集めたらよいのだろうか。
- ・もっと消費者に生産者や販売者の思いを伝えるには、どのような工夫ができるだろうか。
- ・消費者の手に取ってもらうには、どのような情報があればよいのだろうか。
- ・どのようなことをPRすれば、消費者に思いが伝わるのだろうか。
- ・食べるとはということだろうか。
- ・これまでの学習を終えて食に対する考え方は変わったか。
- ・また、どのように変わったか。

（しかけ）

- ・これまでの学びの足跡を掲示することで探究活動の流れを整理し、児童の新たな学び（課題設定）につなげる。
- ・スーパーマーケットにおいて販売活動を行い、学習したことを地域社会に発信する機会を設定する。
- ・第2次でのプレ販売の体験を生かし、店舗での販売で改善を図ることができるようにする。
- ・単元の学習を振り返り、「食べること」について自身の考えの変容や深まりに気付かせ、今後の生活や行動について考えるようにする。

【第2次】（17時間）

農家

農業体験

飲食店

未利用食材を使った調理実習

家庭科（調理）との関連

天応まちづくりセンターでのプレ販売

スーパーマーケットのSDGs推進室

課題 地域社会で食品ロスを減らす取組を考えよう。

個別の問い

- ・地域社会で食品ロスを減らすために取り組めることはないのだろうか。
- ・地域社会で食品ロスを減らすにはどこで活動したらよいだろうか。
- ・日本には食料問題はないのだろうか。
- ・日本にはどのような食料問題があるのだろうか。
- ・天応地区や呉地区で地産地消の取組をされている人はいないのだろうか。
- ・農家の人はどのような工夫や努力をして農作物を生産されているのだろうか。
- ・農家の人は、食品ロスに対してどのような思いを持っているのだろうか。
- ・お店では食品ロスを減らすためにどのような取組をしているのだろうか。
- ・飲食店を営む人は、食品ロスや地産地消に対してどのような思いを持っているのだろうか。
- ・どのように商品をPRすればよいのだろうか。

社会科「食料生産」との関連

（しかけ）

- ・社会科の食料生産の単元との横断的な学習を機能させ、「食料自給率」「地産地消」「未利用食材」「農業や漁業の従事者の高齢化」等の視点で学習を深められるようにする。
- ・ゲストティーチャーを招聘し、社会における食品ロスを減らすための取組や地産地消の取組について学ぶことができるようにする。
- ・地域で農家をされている方の畑に出向き、農業体験や見学、インタビュー等を通して生産者の思いに触れることができるようにする。
- ・天応まちづくりセンターでプレ販売を行い、店舗での販売に向けた課題点を見付けることができるようにする。

【第1次】（15時間）

国語科「新聞記事を読み比べよう（書き手の意図を読み取る）」との関連

動画「命懸けの『行列』」

残食調査

在校生へのアンケート

課題 学校における食品ロスを減らすために、校内で呼びかけよう。

個別の問い

- ・食べるとはということだろうか。
- ・動画や写真を見てどのように感じたか。
- ・身近なところで食品ロスは起きていないのだろうか。
- ・学校での食品ロスを減らすために、何ができるのだろうか。
- ・天応学園の給食では、どれくらい残食があるのだろうか。
- ・残食を減らすために、全校のみんなにどのように呼びかければよいだろうか。
- ・残食を減らすために、全校のみんなに何を伝えればよいだろうか。
- ・給食を残してしまう理由は何だろうか。
- ・給食調理員の先生は、どのような思いで給食を作っているのだろうか。
- ・相手に伝えたいことが伝わる新聞にするために、大切なことは何だろうか。
- ・どのように新聞の書き方を工夫すれば、伝えたいことが伝わるのだろうか。

給食調理員

国語科「知りたいことを聞き出そう（インタビューの仕方）」との関連

新聞記者による「出前講座」

（しかけ）

- ・給食調理員の先生に、給食を作るときや残食があったときの思いをインタビューし、調査できるようにする。
- ・各学年が食器等を返却する際に、食缶を回収し残食量や中身を児童が調べることができるようにする。
- ・身近な給食について注目し、各学年へ食品ロスに関するアンケートをとる活動等、児童が調査できる活動を設定する。
- ・実際の新聞記者の方から、新聞づくりのポイントを学び、新聞の作成に生かすことができるようにする。
- ・調べたことを基に、各学年へ食品ロスを減らすための新聞を作成し、発信する。

3サイクル 「地域社会で食品ロスを減らす取組を改善し、実行しよう。」

【課題の設定】

- ・プレ販売で見た自分たちの取組を振り返り、本販売で改善してPRすることを確認する。

【まとめ・表現】

- ・実際にトマトドレッシングを店舗で販売し、食品ロス削減への取組をPRする。
- ・食べるとはどういうことだろう？



【情報の収集】

- ・作成した販促物や店内放送の原稿等について、実際に販売するお店に確認してもらい、アドバイスを受ける。

【整理・分析】

- ・販促物や店内放送の原稿等、お店や友達の意見も取り入れながら、改善案を実行するための準備をする。



プレ販売での取組を改善し、スーパーマーケットで本販売！

**挑戦 体験 協働
試行錯誤 発信**

大目的:食品ロスを減らす

小目的①:思いを伝える

小目的②:持続可能な取組にする

これまでの学びを生かして発信

＜本販売を終えた振り返り＞

- ・プレ販売の時は、「美味しいですよ」しか言っていなかったけど、試食をしてもらう時や商品をすすめる時に、規格外品や食品ロスの説明ができてよかったです。
- ・お客さんが規格外品や食品ロスに対して共感して買ってくれた人が多かったです。
- ・要領よく説明することで、長々と説明してしまったプレ販売よりも聞いてくれるお客さんがたくさんいてよかったです。
- ・伝えたいことは伝えることができたと思います。大目的、小目的を達成することができたと思います。今回の学びをこれからの学習につなげていきたいです。
- ・国語や社会など、いろいろな教科の学びをつなげて総合の学習を進めることができました。
- ・この学習をしていく中で、自分では思いつかなかった面白いアイデアなどにも出会い、友達によさも発見することができました。



＜食べるとは？（学習後）＞

- ・生きるために必要で大切なこと。
- ・作ってくれた人に感謝すること。
- ・食品ロスを減らすこと。
- ・人が頑張った作ったものを食べさせてもらっているということ。
- ・当たり前のように、当たり前ではないこと。

2サイクル 「地域社会で食品ロスを減らす取組を考えよう。」

【課題の設定】

- ・地域や社会にも食品ロスを減らす取組を広げるためには、「食」に関する課題や取組について知る必要があることに気付く。
- ・「規格外トマトを活用したトマトドレッシングを販売し、食品ロス削減への取組をPRする」という最終ゴールを設定する。

- ・学校だけではなく地域やさらに多くの人に食品ロスについて伝えたいです。
- ・スーパーマーケットで活動すれば、かなり効果があると思います。
- ・スーパーマーケットでは、食品ロスを減らすためにどのような取組をしているのだろうか。

【整理・分析】

- ・これまで学習したことを生かして、天応まちづくりセンターでトマトドレッシングのプレ販売を行う。
- ・プレ販売での、生産者・販売者・購入者からの意見を基に、店舗販売（本販売）に向けた改善案を考える。

- ・本販売では、要領よく説明できるようにしたいです。
- ・お店での販売では、もっと役割を明確に決めておきたいです。

- ・他の人たちの発表を聞いて、自分にはなかった考えがたくさん出ていたから面白かったです。



**食について多面的・多角的に捉える
食料問題の解決に向け、**

**実体験を通して学ぶ
社会科との横断的な学習**

ゲストティーチャー

調理実習

農業体験

プレ販売

【情報の収集】

- ・「食」に関する課題や取組について調べ、課題解決に必要な情報を収集する。
- ・一次産業の従事者や生産者、販売者の視点から見学や体験等を通して情報を収集する。

- ・安心して食べられる物を作ることは大変なのに、それを続けられていることはすごいことだと思いました。
- ・野菜の皮はおいしく食べられないと思っていたけど、調理次第でおいしく食べることができることを知りました。
- ・西村さんは色々なことを勉強して農業をされていて、農業の大変さが分かりました。失敗したところは工夫して改善していることも分かりました。
- ・西村さんから教えていただいたことを生かして食品ロスを少しでも減らしていきたいです。



- ・お宝フリットを食べる時、最初は規格外の食材はおいしいのかなと思っていただけ、実際に食べてみるとおいしく、捨てられるのはもったいないと思いました。
- ・フリットを食べてみて、未利用魚でもこんなにおいしく食べることができてびっくりしました。
- ・天本さんのお話を聞いて、市場に出せない未利用食品は調理して売り出すという選択肢もあると思いました。



1サイクル 「学校における食品ロスを減らすために、校内で呼びかけよう。」

【課題の設定】

- ・食べるとはどういうことだろう？
- ・世界では食料が足りていないのに、捨てられている食品があるのは問題だ。
- ・食品ロスと自分たちとのつながりは？

- ・世界には8億人もの人が、おながすすいても食べ物を食べることができないのに、まだ食べられる物を捨てているのがもったいないと思いました。
- ・どう理由で捨てられているのか知りたいです。
- ・フードロスを減らす活動してみたいです。

【まとめ・表現】

- ・給食の残食を減らすためにできることを考えて新聞にまとめ、全校に向けて発信する。
- ・完成した新聞を中国新聞社主催「みんなの新聞コンクール」に出品する。
- ・全校への発信を終え、得たことや考えたことをまとめる。

- ・総合以外の教科の学習も生かして、新聞を作ることができました。
- ・たくさんの人に読んでもらいたい、食品ロスについて知ってもらいたいです。



天応学園の給食での食品ロスの実態は？

課題の設定

まとめ・表現

情報の収集

身近な食品ロスの実態を知る

整理・分析

中国新聞社みんなの新聞コンクール入賞作品

【情報の収集】

- ・学校における食品ロスの実態を知るための方法を考える。
- ・全校児童生徒を対象に給食に関するアンケートを実施する。
- ・給食の残食量を調べ、重さや内容等を写真やデータで記録する。
- ・給食を作っている人の思いを知るために、給食調理員の方にインタビュー活動をする。
- ・新聞の書き方を知るために、中国新聞社主催の出前講座を受講する。



- ・何を調査してどのようなアンケートをとればよいかを考えることができました。
- ・調査では、曜日ごとに食缶の重さを量る人を決めたらいいと思います。
- ・これからいろいろな教科と結び付けて考えていきたいです。

【整理・分析】

- ・収集した情報を整理・分析し、全校に何をどのように伝えるかを考える。
- ・給食の残食の結果をもとに考えたことを整理し、気付きをまとめる。

